

海外の訪問が後を絶たない町工場

東京都大田区には多くの町工場がひしめき、モノづくりの集積地との異名を取る。その中で、海外からの工場見学が後を絶たない企業がある。それは自動車用金型部品メーカーの南武。同社は金型用中子抜きシリンドアで高いシェアを誇る。この1年に限ってもアメリカ、

ロシア、ドイツといった大国をはじめ、マケドニアやボスニアヘルツェゴビナなどの政府高官や産業界、教育界の関係者が続々と来社した。彼らは同社の製造ラインや高い技術を目の当たりにし、品質管理などについて積極的に質問。また、発展途上国においては若者の人材育成が急務であることから、女性社員が多い同社は人材育成の点でも大いに参考になっているという。野村社長は「モノづくりにおける中小企業の果たす役割の大きさを感じ取ってもらえれば」と話す。



見学者に自社製品を説明する野村社長（南武）

と話す。